

# J1神戸播磨に中学生チーム

サッカーJリーグ1部(J1) ヴィッセル神戸のジュニアユース(中学生の部)チームが来春、播磨地域で新たに発足する。神戸、伊丹に続いて3チーム目。業務提携を結んだ地元クラブ「兵庫フットボールクラブ(F.C.)」(加古川市)が運営し、ダイセル播磨光都サッカー場(兵庫県上郡町)などを拠点に活動。県西部からトップ選手の原石発掘を目指す。

名称は「ヴィッセル播磨U-15」。ヴィッセル神戸の育成組織で、高校生年代のユース(18歳以下)に次ぐ中学生のカテゴリーに当たる。現在J1で活躍する小川慶治朗選手はヴィッセル神戸U-15からU-18を経て

## 県内3カ所目 来春発足、才能発掘へ



トップチーム入りした。

兵庫FCのジュニアユースチームが母体となり、ヴィッセルが指導スタッフを派遣。アンドレス・イニエスタ選手らが所属する、トップチームの攻撃的な

スタイルを教え込むという。ユニホームもトップチームと同じ。

29日、ヴィッセル神戸の三木谷研一副会長と兵庫FCの永浜和紀代表が、播磨光都サッカー場を管理する西播磨サッカー協会会長の山本実・たつの市長を表敬訪問した。播磨地域は、浦和レッズの柏木陽介選手、たつの市出身の日本代表を輩出しているが、Jクラブの拠点はなく、三木谷副会長は「兵庫は西にも才能あふれる選手は多い。ゆくゆくはトップに上がる選手が出てきてほしい」と期待を寄せた。(山本哲志、直江 純)

ヴィッセル傘下の中学生チームの練習拠点になるダイセル播磨光都第3サッカー場(兵庫県上郡町光都3(播磨高原広域事務組合提供))



「ヴィッセル播磨U-15」誕生へ

# 「子どもの目標になる」

## 西播磨の指導者ら歓迎

サッカーJリーグ1部ヴィッセル神戸傘下のジュニアユースチーム「ヴィッセル播磨U-15」が来春、誕生する見通しとなった。県内では3チーム目で、西播磨の指導者らからも「サッカー少年の目標ができ、選択肢が増える」と歓迎の声が上がった。

(社会面参照)

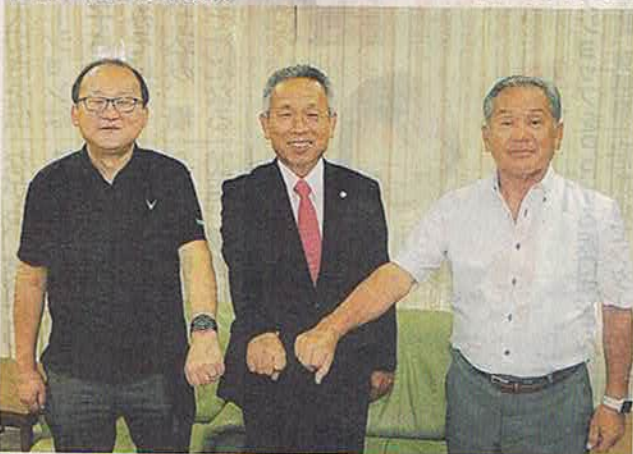
「U-15」は、加古川市に本拠を置く「兵庫フットボールクラブ」の中学生チームが改名し、ダイセル播磨光都第3サッカー場(上郡町光都3)を活動拠点に加える計画。指定管理者の西播磨サッカー協会(会長＝山本実たつの市長)が設備利用の面で協力する。

第3サッカー場は県などが2017年に整備。大人用グラウンド1面とクラブハウスがあり、夜間照明も

「U-15」は、加古川市に本拠を置く「兵庫フットボールクラブ」の中学生チームが改名し、ダイセル播磨光都第3サッカー場(上郡町光都3)を活動拠点に加える計画。指定管理者の西播磨サッカー協会(会長＝山本実たつの市長)が設備利用の面で協力する。

山本市長は「少子化で中学のサッカー部員も減っている。本格的な設備で専門家の指導も受けられるのは魅力。行政としても地域のイメージアップを期待して

いる」と話す。同市内の少年団やクラブチームで長年指導してきた田中秀幸さん(60)は「Jリーグにつながるチームが身近になれば子どもの目標になる。選択肢が増えるのは



良いこと」と喜ぶ。同市出身の現役Jリーガーには浦和レッズの柏木陽介選手(32)がいる。西播磨協会の武内紀憲技術委員長

(52)は「プロコーチの指導に触れる機会が増え、技術レベルが向上する」と期待している。

(直江 純、山本哲志)